

2024年4月30日

名古屋教区 能登半島地震災害支援 4月活動報告書

1. 被災地の現状

発災4か月が経とうとしている。

4月29日時点で、輪島市の死者は106人、一部損壊も含めた家屋への被害は22,076棟にのぼる。避難所：1,089人、1.5もしくは2次避難者：3,077人(全県で) 4月5日現在)以上が避難生活を送っている。

また断水状況は輪島市で約1,420戸が断水、浄水施設の修繕、水道管の漏水確認・修繕が進められている。

2. 名古屋教区の活動について

【近況】

○ サレジアンシスターズの視察

3月に行われた女子修道会総長管区長会の視察を受けて、4月12日、サレジアンシスターズ4名が現地視察を行った。また同時に、管区本部で使われていた家具を寄付された。これらの家具は仮設住宅が完成された際に、希望者を募り寄付する予定。シスターたちは七尾市の災害ボランティアセンターでの活動、輪島でのニーズ調査と視察に同行し、そこでの体験を持ち帰り、今後の支援について検討したいとのこと。

○ 輪島市での活動の可能性

輪島市でのニーズ調査を4月10日に行った。輪島市では発災直後から重蔵神社により物資支援が行われていた。4月から神社主体の活動が困難になったため、その活動をパルシックと共生地域創造財団が引き継いだ。今回パルシックからの紹介により視察に伺ったところ、活動への参加を要請されたため、カリタスとしては4月17日からスタッフ及びボランティアを派遣することとなった。活動は水曜日と土曜日の週二回の午前中に行われ、生活物資(米、レトルト食品、衛生用品、大人用おむつ、飲料水、衣料品)などの配布の補助を行う。物資支援についての寄付の要請もあった。

加えて輪島市ではいまだ断水が続いている地域も多いことから、カリタスが七尾市で行っていた水支援も合わせて行うこととした。

○ カリタスのとサポートセンタースタッフとERSTによる会議

新しいサポセンスタッフメンバー(Fr. 片岡、Sr. 吉田、長井)での運営が始動して2週間が経った中で、4月13日から3度に分けてカリタスのとサポートセンターに関わるすべてのスタッフとともに第2フェーズの活動内容などについて話し合いを持った。七尾教会でのじんのび食堂をカフェの形に移行し、くつろげる場の提供を重視していくこと、輪島市での水や物資支援、仮設支援などを今後の焦点としていくこと、サポートセンターの事務業務とベース運営についてなどが確認された。

① 人材

シスターズリレーの呼びかけに対し、いくつかの修道会が派遣を検討してくださっているとのこと。

## ② 輪島物資支援

重蔵神社境内で毎週水曜日と土曜日に行われている物資配給に4月17日からスタッフ及びボランティアを派遣することとなった。主に生活物資（米、レトルト食品、衛生用品、大人用おむつ、飲料水、衣料品）などの配布の補助、重蔵神社倉庫にて米を小袋に分ける作業などを行っている（9時準備開始、10～11時物資配布）。毎回150人ほどが訪れている。スタッフが少ないため金沢から輪島への支援に参加しているが、週2回の頻度では体力的にも厳しいことと、水曜日の支援は地元の明治・安田生命からの協力も得られるとのこと、5月からは土曜日だけの参加となる。

## ③ 水支援

水支援のチラシを見て支援要請のあった二勢(ふたせ)団地の数件に加えて、避難先の鴻巣小学校から自宅に戻れたという山下住宅の数世帯からも依頼があり、土曜日の午後支援を実施している。山下住宅は悪路をのぼった山の上であり、市の給水車はふもとまでしか来ないため、高齢女性など、一輪車で運んでいるが、大変な作業である。のとセンは生活用水、飲料水ともに支援している。

断水し生活用水や飲料水を必要とされるケースはもちろん、給水車や給水場が近くまで来ていても、高齢のため家まで運ぶことが難しい、というケースが今回の被災地の特徴であることがわかる。



山下住宅の水支援の様子。かなり急な坂を上る。

## ④ じんのび食堂

4月に入り、春になって天候がよくなってきたため、少し長く座って食べたり話したりしていかれる方も増えてきた。七尾市では3月末にはカトリック教会周辺地域は通水したこともあり、食事担当をされていた支援者からも食料提供終了の打診があった。加えて、これから暖かくなり、衛生面の不安もあるため、食事の提供は4月で終了し、5月5日からは「じんのびカフェ」としてリニューアルすることが決定された。

- 4月7日：ポトフとご飯（金沢教会）  
4月14日：クラムチャウダー、ご飯、プリン（西氏：金沢教会所属）  
4月21日：カレーライスとスープ（金沢教会）  
4月28日：卵あんかけうどんとイカ天あおさご飯（富山地区）

⑤ 社協ボラセン 瓦礫撤去作業への参加

七尾市災害ボランティアセンターの軽トラックボランティアのニーズは依然高い半面、マニュアル車の運転技術のみならず、トランシーバーを使っでの活動などボランティア募集にかかる条件のハードルが非常に高いため、ボランティアの確保が難しい。スタッフもできる限り参加しながら災害ボラセンでの貢献をしてきている。第2フェーズからはボランティア派遣を縮小しながらも、災害ボランティアセンターとの連携・情報共有は続けていきたい。

⑥ ついたちの祈り、ついで祈り

4月は内容を新たに、祈りの一環として聖母幼稚園の園児に歌を2曲歌ってもらった。参加者からは子どもたちの歌により一体感が生まれ、心が洗われたとの感想が聞かれた。

⑦ ベース関連

【七尾ベース】

長期ボランティアの長田氏は4月28日で活動を終了、。七尾ベースでの特に社協ボランティアへの参加で大きく貢献された。

【羽咋ベース】女性ボランティア（3/1～3/31 7名参加）

ボランティア募集内容が軽トラック運転やがれき撤去のため、女性ボランティアの申し込みは少ないが、精力的に活動に参加された。

⑧ 視察受け入れ

- サレジアンシスターズ（4月13日）
- 名古屋教区サポートチーム（4月27日）
- 聖霊会視察（5月1日）

⑨ ミーティング

【スタッフミーティング】

4, 5月は変則的に開催した。第2期からは5月14日より事務局スタッフとしてパートタイムで働かれる片桐氏も交えて金曜日13:00から行う予定。

【名古屋教区のとサポートミーティング】

災害発災当初から情報交換・連携を深め、特に物資面で支援していただいていた名古屋教区サポートミー

ティングのメンバー8名が4月27日に被災地視察を行った。

毎週行っていたミーティングは4月から隔週金曜日に変更した。

断水地域への水支援用の飲料水、じんのび用ジュース、お米の支援をいただいた。

